今月のトピックス

特集 会社訪問 -No.52
NBS トラックス 株式会社 様

# 会社設立 55 周年を機に社名を変更 安全・安心な輸送の実現に向けて邁進

香取市に本社を構える NBS トラックス㈱（旧社名：長嶋運送㈱。長嶋孝代表取締役会長、長嶋幹夫代表取締役社長）は、各種鋼材や鉄骨製品、機械等重量物などを関東圏に輸送している運送会社である。

会社設立 55 周年を機に社名を変更した同社では、「安全・安心な輸送の実現」を目指してドライバーへの管理・指導を強化するとともに、「ドライバー第一主義」を旗印に、働きやすい職場環境実現への取り組みにも力を注いでいる。

今年 10 月からの新社名「NBS トラックス」が入った会社銘板を示す長嶋幹夫社長（左）と長嶋孝会長（右）

## ■「ドライバー第一主義」を掲げ 業界未経験ドライバーの育成に力を注ぐ

NBS トラックス㈱は、長嶋孝会長によって山田町（現・香取市）で創業した運送会社である。

長嶋会長は、昭和 35 年に農業高校を卒業後、７年ほど地元で農業を営んでいたが、37 年から保有する自動車で神田市場などに地元産の野菜を運ぶようになった。長嶋会長が運送事業免許を取得した 43 年頃は、茨城県鹿嶋市から神栖市に広がる鹿島臨海工業地帯の開発が進みつつある時代であった。鹿島地区に拠点を構えていた大手鉄鋼メーカーの子会社が小見川町（現・香取市）に工場を設立したのを機に、同工場からの輸送を獲得し、農作物輸送から鋼材輸送に転換。現在は、各種鉄鋼製品や一般鋼材、機械等重量物の輸送などを行っている。56 年に長嶋運送㈱を設立した後、58 年からは事業の多角化を目的に、ゴルフ練習場や自動車修理工場、保険会社、農業生産法人や観光いちご園などを開業。同社グループは運送事業を中心に、地元に密着した様々な事業を展開している。

同社は今年 10 月、会社設立 55 周年を迎えたのを機に、社名を NBS トラックスに変更した。同社では会社設立以来業容を順調に拡大しており、従業員数は 100 人に達している。事業規模にふさわしい新たなイメージを付加し、ネームバリューを一層高めたいとの思いから、同社では新社名への変更を決めたという。ちなみに、NBS は「長嶋（N）」・「物流（B）」・「サービス（S）」を意味している。

ところで、鋼材輸送では貨物の種類や使用する車両によって、積み付け方法や固縛方法、使用する保定器具類が異なってくるため、荷崩れを防ぐために適切な積み付けが求められる。また、他の輸送に比べて積載物の重量が大きく、ひとたび事故を起こすと重大事故になりやすいことから、事故防止に最善を尽くす必要がある。

同社では、年４回実施する安全会議において、荷物の積み付け方法や労働災害防止、交通事故防止などに関して指導を実施。その際には、事故事例を基に、写真や映像を多用しながら、ドライバーに分かりやすく指導を行うようにしている。また、班会議を不定期に行うほか、事故が発生した際には事故対策会議を開催し、同じような事故を二度と繰り返さないための方策などについて検討し、ドライバーへの周知を行っている。さらに、年末には地元警察署や保険会社から講師を招き、安全全体大会を実施している。

長嶋　孝
代表取締役会長

長嶋幹夫
代表取締役社長

また、荷崩れ防止の観点から、積み付けの際に営業担当者の立会いがない場合には、積み付けを行った後にドライバーがスマートフォンで写真を撮り、本社営業所に画像を送付。配車担当者が積み付け状態を確認し、問題がないことを確認した後でなければ出発させないようにしている。

「大手荷主の場合は、事故に対して特にシビアに捉える傾向にあります。当社では事故を防ぐために守らなければならないルールを手引きとしてまとめ、ドライバーに徹底させるようにしています。特に、錯覚や不注意、慣れによる手抜きは、経験値の高いベテランドライバーでも起こり得るため、安全会議などを通じて事故防止への取り組みを徹底させ、ドライバーの安全意識を高めるようにしています」（長嶋孝会長）

同社では業界未経験者の採用に力を入れていることもあり、ドライバー未経験で入社する転職者の割合が高い。同業他社からの転職者の場合、同社の決まりに従わず、同社に入社する前に身に付いた「自分なりのルール」をもとに作業を進めてしまうことが少なくないことから、同社では同社が定めたルールに素直に従い、事故防止に真摯に取り組んでくれる業界未経験者に重きを置いて採用を行っている。なお、同社では免許取得制度（免許取得費用は会社全額負担）を設けており、４トン車から大型車、トレーラーへのステップアップを希望するドライバーの期待に応えている。

一方で、異業種からの転職や実務未経験での転職の際に問題に

荷物の積み付け後にドライバーが写真を撮影。配車担当者が積み付け状態を確認し、荷崩れを防ぐ

同社は「ドライバー第一主義」を掲げ、働きやすい職場環境づくりに力を入れている

荷主との交渉の場面では長嶋社長が交渉を行い、長時間労働改善や適正運賃・料金収受の実現に取り組む

なってくるのが、仕事内容のミスマッチによる早期離職である。同社では、新入社員へのフォロー体制を充実し、早期離職を防ぐようにしている。

同社の営業担当者は、新規荷主の開拓のほか、既存荷主に対する輸送サービス向上という役割も担っている。また、荷物の積み付けに立ち会うほか、ドライバーへの点呼や指導なども実施。もし新人ドライバーが日々の輸送業務の中で悩みごとや困りごとがあった際には、親身に相談に乗るとともに、改善の必要があれば荷主に申し出るようにしている。

「当社では大型車やトレーラーによる重量物輸送を中心としていることから、業界未経験の方にとっては敷居が高く感じられるのではないかと思います。しかしながら、入社して仕事の進め方を覚えてしまうと、当社で長く働き続けるドライバーが多く、定着率は高くなっています。ドライバーがいなければ運送会社は事業を続けることができないため、運送会社にとってドライバーはかけがえのない大切な存在です。当社では『ドライバー第一主義』を掲げ、特に新人ドライバーへのフォロー体制を充実し、定着に繋げています。当社では最近、20 代の新人ドライバーが３人ほど入社しました。かつては、ドライバーという仕事に『稼ぎ』を求める人が少なくありませんでしたが、現代の若者の中には『稼ぎはほどほどで、しっかり休みが取れること』を求める人もいます。当社では、完全週休２日制で働く従業員もいれば、当社の社内カレンダーに従って隔週休２日制で勤務し、完全週休２日制で働く従業員よりもその分手取り額が多い従業員もいるなど、働き方に対するニーズの変化にも対応しています。さらに、入社祝い金制度や退職金制度の導入など、福利厚生の強化にも取り組んでいます」（長嶋幹夫社長）

さて、同社では創業してからしばらくの間は、同業他社からの依頼での輸送が多かったが、鋼材輸送へのシフトとともに、お客様との直接取引を増加させてきた。また、大手運送会社と協力会社としての取引きもある。現在はどちらも直接取引を通じて、荷主と直接交渉できる体制を構築している。

「物流の 2024 年問題」への対応が喫緊の課題となっている昨今、同社でもドライバーの長時間労働の改善に向けて、荷主との交渉を進めている。同社では、デジタルタコグラフのデータからドライバーの拘束時間や休息時間などの実態を把握した上で、長時間労働の改善に向けて荷主に協力を依頼している。

ほとんどの荷主は交渉の後、同社の輸送品質向上への取り組みや、未来へ向けての方針への理解を示してくれた。その後、長時間労働改善の理解を得て、現在に至っている。

長時間労働改善に向けた荷主の理解と協力が進んだことにより、同社では令和６年から適用される時間外労働の上限規制（年間 960 時間）をほぼクリアできているという。併せて、同社では軽油価格高騰に伴う運賃値上げに向けた交渉も進めている。

「荷主との交渉の際には、営業担当者ではなく私が自ら荷主先に出向き、交渉を行うようにしています。当社では、運行中にトラブルがあった際にはすぐに会社に連絡するように、ドライバーに指導しています。当社のグループ会社の中には自動車修理工場があり、ドライバーからの連絡を受けて修理工場のスタッフが即座に対応できる体制が整っています。トラブルがあった際にも、『そのトラブルがいつ解消するのか』、そして『荷物をいつ届けることができるのか』といった荷主が求めている情報を早急にお伝えすることで、信頼感醸成に繋がります。質の高い輸送サービスを提供していくことはもちろんのこと、荷主との信頼関係構築への努力を着実に積み重ねていくことが、交渉実現への近道なのではないでしょうか」（長嶋社長）

同社では社名変更を機に、従業員一同が大いなる希望をもちながら、次の時代に向けてさらなる努力を進めていくとしている。今後に向けた取り組みを長嶋社長に伺うと、「安全・安心の実現への努力を怠ることなく、お客様からの信頼に応えることのできる運送会社として、事業を継続していく」ことだと語った。

「これまでに当社が培ってきた高い輸送品質を維持し、一層磨きをかけていくためには、ドライバーに対する管理・教育が何よりも欠かせません。会社設立から 55 年という歴史に胡坐をかいていては、指導が行き届かなくなり、慣れ合いの気持ちが生まれます。こうした気の緩みが原因となって、重大な事故を引き起こしかねないのです。当社としては、事故の引き金にもなりかねないマンネリを打破するために、会長と私から管理者へ、そして管理者からドライバーへと指導を徹底していくことで、安全・安心な輸送の実現に引き続き注力していきたいと思います」（長嶋社長）

## ホットにゅーす

### ■親・子・孫が腕を競い合う 毎月の楽しみ「３世代ゴルフ」

長嶋社長には息子が３人おり、２人は同社営業担当とグループ内の別会社、もう１人は商社の営業担当としてそれぞれ勤務している。

５年ほど前からは、長嶋会長と長嶋社長は、長嶋社長の２人の息子と「３世代ゴルフ」を毎月楽しんでいるという。

「続けているうちに、２人の孫はだんだんゴルフが上手になってきており、飛距離がアップしたことで余計に面白く感じているようです。私は現在 82 歳になりましたが、まだまだ『３世代ゴルフ』を続けていきたいと思います」（長嶋会長）

長嶋会長、長嶋社長と長嶋社長の２人の息子で腕を競う「３世代ゴルフ」

**企業プロフィール**
**NBS トラックス株式会社**
代表取締役会長　長嶋　孝
代表取締役社長　長嶋　幹夫
本社　千葉県香取市新里 1331-1
従業員　100 人（うちドライバー 85 人）
台数　96 台